

[修士]

修士学位論文内容要旨
Abstract

専攻 Major	海洋環境保全学	氏名 Name	小林 遼太
論文題目 Title	大学生の海洋リテラシーに関する調査研究		

日本では、海洋基本法（2007）や海洋基本計画（2008）等において、海洋教育の普及促進の必要性および海洋政策を支える柱としての海洋教育の重要性が述べられている。海洋教育の普及促進は、海洋リテラシーの向上を目的とすると考えられているが、海洋リテラシーに関する研究報告は少なく、さらなる研究の充実が求められる。本研究では大学生を調査対象とし、質問紙調査とインタビュー調査を実施することにより、海洋リテラシー教育に関する基礎資料の作成を目的とした。

上記の目的を追求するため、海洋系大学の学生（680名）および一般大学の学生（251名）、計931名を対象とした海洋リテラシー調査票を用いた質問紙調査を行った。調査で得られた回答を得点化した後、海洋リテラシー総合得点及び9つの下位尺度得点を算出し、海洋系大学学生、一般大学生の両群間で、平均値の比較を行った。次に、一般大学生の海洋リテラシー総合得点の平均値と標準偏差より海洋リテラシー標準化得点を算出した。以上の統計処理においてはIBM SPSS 15.0を使用した。加えて、算出した海洋リテラシー標準化得点からみた海洋系大学学生の上位者8名を対象として、海洋リテラシー調査票における9つの下位尺度項目に関して、対象者の海洋リテラシー獲得における背景や要因についての半構造化インタビューを行った。インタビューは1名の対象者につき1時間程度で実施し、インタビュー記録から得られたデータを逐語データ化した後、KJ法の手順に従って発言のカテゴリー化を行った。

その結果、海洋リテラシー総合得点及び8つの下位尺度得点において海洋系大学学生の得点が一般大学生よりも有意に高かった。海洋系大学生においては、大学入学までの経験や学習から海洋に興味を持ち、海洋について学ぶ意欲が高いことや、大学での実習や学習が海洋リテラシーを向上させる可能性があると考えられた。加えて、一般大学生における海洋リテラシーの標準化得点を提示することにより、海洋リテラシーの評価指標について作成した。海洋リテラシーが高いと考えられる大学生へのインタビュー調査から得られた131個の発言を、「海での活動体験・経験」、「学校での学習」、「まわりの人からの影響」、「メディアの情報」の4つのカテゴリーに分類した。

一般大学生の海洋リテラシーは高いとはいえず、海洋リテラシーの教育に関し、継続的な取り組みが行われる必要があると考えられた。大学生への聞き取り調査から、対象者の海洋スポーツ経験や生活の中での海洋との関わりなどによる海洋リテラシー獲得、向上への効果が大きいと考えられた。